

26. 「松下幸之助」 ①サービスする心

2026/7/2 白子隆志

皆さんは「松下幸之助」という人物をご存じでしょうか？

「Panasonic」の創業者ですが、「Panasonic」が元々世界的企業である「松下電機」「National」だったことを知らない若い人たちもいるでしょうね。

松下幸之助さんは 1894 年-1989 年、和歌山県出身。関西商工学校夜間部予科を卒業。1910 年、大阪電灯(現関西電力)に入社。苦勞しながら 17 年、改良ソケットを考案して独立し、翌年 23 歳で松下電氣器具製作所を創業。1935 年、松下電器産業(現在のパナソニック)に改組して社長となる。以後、家庭電化製品の大メーカーに育て、「経営の神様」とよばれた。46 年に PHP 研究所、79 年に松下政経塾を設立するなど、政財界のみならず文化的活動も行った著名人で、私の愛読書である「道をひらく」は、500万部以上読まれています。

その中には、多くの短い文章で、平和、人間の生き方、日本人の心などを書かれています。今日はその第一弾として「サービスする心」を紹介します。

+++++

「サービスする心」 『道をひらく 62-63P』 松下幸之助 著

与え与えられるのが、この世の中の理法である。すなわち、自分の持てるものを他に与えることによって、それにふさわしいものを他から受けるのである。これで世の中は成り立っている。

だから、多く受けたいと思えば多く与えればよいのであって、十分に与えもしないで、多く受けたいと思うのが虫のいい考えというもので、こんな人ばかりだと、世の中は繁栄しない。

与えるというのは、わかりやすくいえば、サービスをするということである。自分の持っているもので、世の中の人々に精いっぱいサービスをすることである。頭のいい人は頭で、力のある人は力で、腕のいい人は腕で、優しい人は優しさで、そして学者は学問で、商人は商売で……。

どんな人にでも、探し出してくれば、その人だけに与えられている尊い天分というものがある。その天分で、世の中にサービスすればよいのである。サービスのいい社会は、みんなが多く与えあっている社会で、だから身も心もゆたかになる。

おたがいに繁栄の社会を生み出すために、自分の持てるもので、精いっぱいサービスしあいたいものである。

+++++

我々は、病院で患者さんや仲間に精いっぱいサービスすればよいのです。

皆さんは、自分の持っているものを相手に十分与えていますか？

他の人に十分に与えもしないで相手が与えてくれるものと勘違いしていませんか？最近、そんな日本人が増えているようで心配しています。

私自身も胸に手を当てて自問自答したいと思います。

